

11月12日 第3日目

花蓮における交流1日目は、バスで国立東華大学へ。東華大学は1990年代前半に設立された若い大学だが、文学部については台湾随一であり、近年は国際化にも力を入れているそうである。

到着後、国際交流担当の職員と、ガイドをしてくださる学生の方々が歓迎のセレモニーを開いてくださった。生徒たちはやや緊張気味だったものの、続く大学案内に移ると、雄大な自然の中、野球場300個分に相当するという敷地に展開するキャンパスに歓声をあげながら、少しずつ大学生とのコミュニケーションを試みはじめる。

昼食をはさみ、午後は大学の教授による特別講義。50名程度の大学生たちとともに、日本と台湾が共通して抱える課題である高齢化に関して、2030年における自己をとりまく状況と、予想される困難に対して何をすべきかということ、グループワークを通して学んだ。同年代の台湾の学生たちと交流する初めての機会となったが、グループワークで知り合った学生と記念写真を撮り、それをSNSで交換したり、フィールドワークへ向けて調査内容に関する中国語の文章を添削してもらったり、早速意欲的に交流する姿が見られた。

計画段階では少々物足りないのではと案じていたところもあったが、全体を通して見ても交流活動の初日に行う内容としてはちょうどよいボリュームだったのではないかと感じる。そしてこちらが予想していた以上に、大学の側もしっかりと歓迎・対応してくださっていた。

ホテルに戻り小休止した後に、ホテル内のレストランで夕食。スタンダードな中華料理だったが、大変食べやすく、またボリュームもあり、ついつい食べ過ぎてしまう。

花蓮での短い滞在も明日までということで、本日はさらに、初めての台湾の夜市の散策。岩手で言うところの神子田の朝市が夜に開かれているようなイメージであり、周辺の住民や観光客で月曜の夜から大変にぎわっている。生徒たちは思い思いに食べ歩きをしたり、お土産を吟味したり、初の夜市散策を存分に満喫した模様。

明日はいよいよ本校生徒による初めてのプレゼンテーションを迎える。

セレモニーでの記念品交換



壮麗な東華大のキャンパスにて



東華大大学生とのグループワーク



フレッシュな1年生@夕食

